

## 近世の若狭：道路と港を活用した地域の発展

### 概要

日本の近世（1568年～1867年）において、若狭地域を治めた大名たちは、彼らの管轄下にある土地を開発し、富と権力を増大させるため、道路や港を利用しました。彼らは貿易や税を規制し、新しい法律を導入し、熊川宿という宿場町や小浜の港町などの地域を繁栄した貿易の中心地に成長させるための事業を実施しました。

### 詳細情報

#### 若狭国の統治

1587年には、浅野長政（1546年～1611年）は若狭国の統治を任命されました。徴税のための検地を行った後、1589年に熊川宿の様々な税を免除する勅令を出しました。この地域は古くから貿易と旅の交差点となっていたが、新しい政策は商人に有利なものであり、熊川宿を多くの運送会社、荷役所、商店、宿泊施設がある宿場町へと発展させるのを助けました。その結果、熊川宿と琵琶湖の港である今津港を結ぶ主要ルートであった九里半街道などの周辺道路の交通量が大きく増加しました。1595年、若狭国の新たな統治者となった木下勝俊（1569年～1649年）は、特に収賄などの不適切な行為に対する厳格な法律を含む、庶民と役人に対する一連の規制を制定しました。

#### 権力者との関係

小浜の港町の多くの商人は、16世紀末の日本の事実上の指導者であった豊臣秀吉（1537年～1598年）を支持していました。彼らの中には、政府に代わって特定の商品を再販し利益を得ることを許可された者もいました。商品の顕著な例としては、フィリピンからのルソン陶器や秀吉が年貢として徴収した米などがありました。さらに、豊臣家の者と小浜の商人との結びつきは、小浜の特定の家族の社会的地位や経済的地位の向上にも寄与しました。

#### 小浜藩の発展

17世紀初頭、徳川幕府の創始者である徳川家康（1543年～1616年）は、大名という領主によって統治される藩制度を確立しました。家康は新たに設立された小浜藩の初代藩主に京極高次（1563年～1609年）を任命しました。京極は、小規模な後瀬山城に取って代わる小浜

城の建設を開始し、防御を強化し、新しい城の周りに武家屋敷の地区を造りました。1634 年からは酒井家が藩を統治し、小浜城の建設を完了させ、小浜がさらに繁栄した港町に成長するのを手助けしました。酒井家は、海上貿易を監督し、商人の事業を支援し、寺院や神社に資金を提供し、若狭漆器などの地域の工芸品の発展を促進しました。

## **展示品**

展示されている資料は、日本の歴史における近世の若狭地域の発展に関連するものです。江戸時代（1603 年～1867 年）の絵巻（絵巻物）の複製品には、熊川宿の鳥瞰図が描かれており、現在の町の配置と非常に似ています。旅人や物資の動きを監視していた番所は、宿場町の入り口の柵の近くにあり、図の中心に見ることができます。浅野長政が 1589 年に検地を経て発行した布告の複製は、熊川宿を特定の税金から免除しています。掛け軸は、適切な行動の規則を記した 1595 年の木下勝俊による法令の複製を展示しています。